

平成24年第12回函館市教育委員会定例会 会議録

- 1 日 時 平成24年12月4日(火) 午後1時
 - 2 場 所 中央図書館小研修室
 - 3 出席委員 橋田委員長, 河村委員, 小葉松委員, 佐藤委員, 山本委員
 - 4 欠席委員
 - 5 事務局 種田生涯学習部長, 岡野学校教育部長, 堀田生涯学習部次長,
坂野生涯学習部次長, 渡邊管理課長
 - 6 傍聴者 なし
 - 7 付議事項
- 日程第1 報告事項 平成23年度CRTの結果について
- 日程第2 視 察 平成24年度学力向上プロポーザル授業視察(鍛神小学校)

■橋田委員長

- 開会宣言 午後1時
- 議事録署名人に, 河村委員, 小葉松委員を選任。
- それでは, 日程第1, 報告事項「平成23年度CRTの結果について」報告を求める。

■学校教育部長

- 平成23年度のCRTの結果について報告する。
- CRTは, 標準学力検査, 目標準拠検査とも言われ, 学習指導要領に基づき行われている学習が, 児童生徒にどの程度定着したかという到達の度合いを測り, 学習の状況を把握するために行われる。
- 一般のテストとの違いは, 全国の被験者の結果をもとに, 標準化という作業を経てテストの問題が作成されるため, 信頼度が高いことが特徴である。
- 函館市では函館市義務教育基本計画に, 学習の実現状況の調査と授業の改善を行うことを明記しているので, 毎年市立学校の小学4年生・中学1年生合わせて4000名を対象として, 小学生は国語・算数, 中学生は国語, 数学, 英語を実施している。
- 実施時期が3学期であることから, 次の年度の1学期に, 業者より結果が届き, 子ども一人一人の結果, 学校の結果が各学校に送られていると同時に, 函館市教委には, 全学校の結果を合わせた, 函館市の平均が送付される。
- CRTでの検査結果は, 様々なデータで表すことができるが, 今回は, 各教科の得点率を年度ごとに見ることができる。
- まず, 小学校国語だが, 全国平均と比較すると, 平成15年度は1.9ポイント以上の差があったが, 平成20年度に1ポイント以内の差まで縮めることができた。平成23年度は,

2.9 ポイントの差となっている。

- これまで、言語についての問題が課題とされてきたが、やや改善されてきている。
- 小学校算数だが、平成 15 年度は 6 ポイント以上の差があったが、現在は 4 ポイント弱まで差を縮めることができた。
- まだ全国との差はあり、特にこれまで数学的な思考力を問う問題について苦手とする傾向が強いことがわかっているが、今年度は全国平均との差が縮まった。
- 次に中学校国語だが、平成 19 年度にスタートした当初は、全国平均とは 2 ポイント近く差があったが、昨年度、ついに全国平均を上回った。
- 平成 23 年度は 0.5 ポイント差があるが、ここ数年は、ほぼ全国平均に近い得点率をあげることができている。
- 中学校数学、平成 19 年度は 2 ポイント、平成 20 年度は 4 ポイント近くの差が見られたが、昨年度は 0.1 ポイント、平成 23 年度も 0.3 ポイントの差まで詰め寄っている。
- 小学校と同じく、数学的な思考力を問う問題について苦手とする傾向が強いことがわかっている。
- 中学校英語に関しては、全国平均とほぼ同等か、年によっては上回っている状況。平成 23 年度は、0.5 ポイント全国に及ばなかった。
- 以上がおおまかな結果となる。残念ながら全て全国平均を上回るというような状況にはないが、昨年度の結果と比較して、全国との差が縮まったり、さらに上回ったりした事項は 6 点にのぼっており、各学校の様々な学力向上の取り組みの大きな成果であるにとらえている。
- さて、調査については、点数の比較はもちろんだが、「何ができたのか」、「何ができなかったのか」、「何が定着していて」、「何が定着していないのか」を明らかにする必要がある。
- たとえば、問題を 1 問 1 問分析したところ、全国との差が顕著に見られた問題として、小学校国語科ではメモに基づいて詳しく書かれた文を選択する問題や、漢字辞典の使い方を尋ねた問題、小学校算数科では、「 m^2 」を「a」に直す問題や三角形の重なりから 90 度以上の角度を求める問題、中学校数学科では、小数や分数、正の数、負の数から一番小さい数を選ぶ問題などがあげられる。
- このように問題を 1 問ずつ分析していくと、全国平均の得点率を大きく上回っている設問もあれば、大きく下まわっている設問もあり、これらを学力向上の解決の手がかりとしていこうと考えている。
- 現在、函館市内の教職員と教育委員会で学力向上プロジェクト推進委員会を開催し、詳細に分析した結果を報告書という形で各学校にお知らせするとともに、さらなる学力向上のための方策を協議しているところであり、今年度は、各学校が 6 年間あるいは 3 年間を見通して、学習の仕方を統一して行う方法を取り入れることが有効であると考えている。
- 本日、午後からのプロポーザル授業で、これらを考慮した実践の 1 つをご覧いただけると思う。

■橋田委員長

- 報告事項について何かあるか。

■小葉松委員

- 平均しか出ていないが、下と上の開き方や地域の状況など、どの程度まで解析しているのか。

■学校教育部長

- 各学校の平均、上位下位などは出ている。

■小葉松委員

- 対策を考えるときに、地域的な特徴があるか、また、平均は下の伸びしろが大きく影響するので、底辺をどのように上げるかで変わってくる。統計学に詳しい方がいれば対策が明るく見えてくる。市全体では、漠然とした対策となるのではないか。

■河村委員

- 函館の子どもたちは、中学校になると伸びてくるということか。

■学校教育部長

- 伸びてきていると感じる。

■橋田委員長

- ここ数年、教育委員会では、いろいろなかたちで先生方に対してやっている。それが先生一人一人の日々の実践に反映されなければ困ると思っていた。子どもたち一人一人の学力をしっかりと伸ばしていこうとなってきたのではないか。

■学校教育部長

- 1年に一回は授業を公開することは、全校に定着している。また、授業を地域に公開していろいろな方から評価をいただくということを小中学校の60パーセントくらいと、かなり定着している。子どもたちへの授業の質を上げるという先生方の構えが少しずつ変わってきている。

■佐藤委員

- 北海道は全国より低いと聞いているが、函館は全道平均よりよいのか。

■学校教育部長

- 渡島とは比べている。全国から比べるとまだ渡島，函館は差がある。ただ，全体的に底上げを図り，道教委も函館市もこれだけ取り組んでいるので，10年前に比べれば力ははるかに違っている。

■橋田委員長

- 報告事項については，これで終わる。
- 平成24年度学力向上プロポーザル授業の視察のため，鍛神小学校へ移動する。

(視 察)

■終了宣言

- 午後2時15分

議事録署名人 河 村 祥 史

〃 小葉松 洋 子

調製者庶務係 田 中 修 一